7．身近な地域と森のつながり

北勢 ―桑名市・いなべ市・木曽岬町・東員町・四日市市・菰野町・朝日町・川越町・鈴鹿市・亀山市―

御在所岳ロープウェイ

北勢地域は、鈴鹿山脈のふもとから伊勢湾にかけて平野が広がる地域で、他の地域と比べて森林面積の割合が小さくなっています。この地域には、登山で人気のある山がいくつもあるため、林業だけでなく、観光などレクリエーションでの森林の利用も多くなっています。また、都市部の住民による森づくり活動も活発に行われており、都市と森との交流が進められています。

町のきこりが森づくり！ 森林施業 認定NPO法人 森林の風

「水源の森を守りたい！」という思いを持った町の人々が集まり、四日市市を中心に三重県各地の人工林や里山の手入れを行っています。2005年の設立以来、手入れをした森の面積は100haを超えました。「まちのきこり人育成講座」の開催や企業による森づくり活動のサポートをしながら、都会の人にも林業に関心を持ってもらう活動を行っています。

▲「森林の風」代表 瀧口邦夫さん

森の仕事を見に来て！きっと感動するよ！！

わたしたちはもともと林業が仕事ではありませんが、森をきれいにし、森にさわやかな風を吹かせたいという思いで活動を始めました。実際に森に来て、木を切るときのチェーンソーの“音”と、木を切り倒す時の“音”を聞いてほしいです。きっと感動するよ！

まちのきこり人育成講座 ▶

3兄弟で三重県の木を使った家・家具作り！！ 三栄林産株式会社 ノッティーハウスリビング

3代続く材木屋です。現在は3代目の坂英哉さんを中心に、兄弟3人がそれぞれ製材・建築・販売の得意分野で活躍しています。亀山市産材などのスギやヒノキを使った家づくりを通して、木の良さや、地元の木を使うことが環境を守ることにつながることを伝える取り組みをしています。坂兄弟の夢は、祖父から引きついだ山の木を活かすこと。その森の木を使って町のお客様といっしょに森の木を選ぶところからの「家づくり」をしたいと考えています！

▲ 3兄弟の二男で建築士の成哉さん

いろんな自然体験ができるよ！ 三重県民の森（三重ぴよクエの森）

三重県民の森（三重ぴよクエの森）は、第31回全国植樹祭（1980年）の会場を活用して整備された公園です。四季を通じて樹木やそこに住む動植物を観察でき、自然観察会や森林教育プログラムが行われています。

▲ 自然観察会のようす

▲ みえ森林教育ステーションのようす

こんなところにも三重県の木!! 鈴鹿サーキット

鈴鹿サーキットでは、アトラクションやレストランの一部に三重県産の木材を使用し、地域の木材や間伐した木を使うことの大切さをPRしています。

◀ アトラクション「フラワーワゴン」

レストランのごみばこ ▲

中勢 ― 津市 ―

三多気の桜

中勢地域北部の津市は、県庁所在地として情報発信の中心地となっており、くらしの中での様々な木材利用や、木材の良さを伝える取り組みが広く行われています。また、地域を流れる雲出川の上流には豊かな森が広がり、最近では森林浴やウォーキングといったレクリエーション活動が活発に行われているほか、下流部の住民が上流部で水源の森づくりの活動を行うなど、森や川を通じた交流も行われています。

山の手入れのプロ集団！ 中勢森林組合

中勢森林組合では、津市を中心に植林、間伐、伐採など、ありとあらゆる山の手入れや、地域の木材を使った木製品の製作、販売を行っています。他にも、生活に欠かせない森林の役割について知ってほしいという思いから、森のせんせいとして小・中学生に森のはたらきや木を使うことの大切さを伝える活動をしています。

▲伐採した木を運送用車両に積んでいる様子

みなさんへ

地域の木を使うと、その木を育てる山の整備につながります。ぜひ皆さんも自分の地域の木を使ったり、地元の山や森に興味を持ってみてください。

地元の杉をはしっこまで使おう！ みえもん

「みえもん」では、木材から柱をとった後の余った木（端材）を使わないのはもったいない！と、活用することを考えました。今では「杉うちわ」や「黒芯箸」などの商品を開発して、製作・販売しています。また、地元でとれた材料で地元の人が作ったものや三重県でがんばる人、三重県のすばらしいところを紹介しています。

森から川、海へと続く水の物語 新雲出川物語推進委員会

森の木は森のある地域にくらす人たちだけが守り育てているのではありません。雲出川の流域では、下流の海の近くに住む人たちも、川や海でのゴミ拾いのほか、森への植林など、きれいな水を守り、その水を生み出す上流の森を守り育てる活動をしています。

▲香良洲海岸の清掃

▲美杉町の森での植樹活動

木材の個性を活かして伝える NPO法人 もりずむ

「もりずむ」では、森での林業体験などを通して木のすばらしさを伝えたり、環境のことを考えた木材の使い方を提案する取り組みをしています。また、伝統的な木材の天然乾燥を研究・実践して、木の香りやツヤ、油分などを木に残し、丈夫で虫のつきにくい木材をつくるなど、木の本来の良さを引き出す取り組みも行っています。

▲山の中の天然の乾燥場

中勢 ― 松阪市・多気町・明和町・大台町 ―

中勢地域の南部は、古くから林業が盛んな地域で、木材流通の要所です。松阪市にある日本初の国産木材コンビナートを中心に、木材の生産・加工・販売が活発に行われています。平成 26 年には、県内初の木質バイオマスを燃料とする発電施設が建設され、地域全体で木材を活用する体制が整いつつあります。また、宮川の最上流にある大杉谷は、日本三大峡谷の一つにあげられ、ここを拠点に自然体験を通じた環境学習の取り組みも行われています。

親子三代で引きつぐ森　森の名手・名人 上尾欽吾さん

▲上尾さんが育てた木の断面
柱にしても節が出ません。
（刃は上尾さんが育てた木の証）

上尾さんの父・弘さんは、森での仕事が大好きな人で、柱に節の出ない良い木を育てるにはどうすれば良いのか考え、木が細いうちから枝打ちをすることにしました。

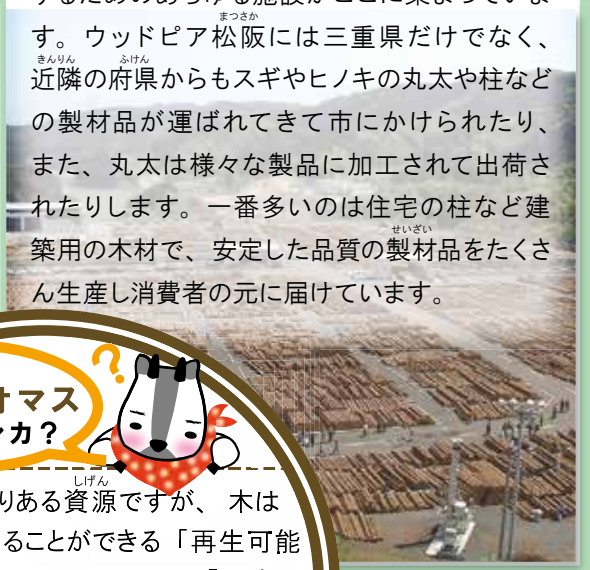
上尾さんはその方法を引きつぎ、柱に適した優良材を育てています。一本一本の木を見て、木と会話をしながら手間をおしまずにその木が一番必要としている手入れをします。森づくりに対する心は、息子の智洋さんにも受けつがれています。

山づくりは楽しい仕事！

父の植えた木をわたしが切り、わたしが植えた木を息子が切る。100 年先を見て手入れをするのが森の仕事です。「あー、いい山になった！」そう思えることがわたしの山づくりの一番の喜びです。

木材なら何でもそろう！ウッドピア松阪

ウッドピア松阪は、平成13年に日本に初めてできた国産木材のコンビナートです。木材の市場、製材所、乾燥工場から木質バイオマス発電用の木のチップを作る工場まで、木材を製品にするためのあらゆる施設がここに集まっています。ウッドピア松阪には三重県だけでなく、近隣の府県からもスギやヒノキの丸太や柱などの製材品が運ばれてきて市にかけられたり、また、丸太は様々な製品に加工されて出荷されたりします。一番多いのは住宅の柱など建築用の木材で、安定した品質の製材品をたくさん生産し消費者の元に届けています。



木質バイオマスって何でシカ？

石油や石炭は限りある資源ですが、木は人が植えて収穫することができる「再生可能な」資源です。「バイオマス」とは「再生可能な、生き物からできた資源（化石燃料は除く）」のこと。その中でも木からできているものを「木質バイオマス」といいます。

木からできた環境にやさしいエネルギー資源です

森が生み出すエネルギー　三重エネウッド株式会社

三重エネウッド株式会社は、三重県に初めてできた「木質バイオマス発電」を行う会社で、木材のチップを燃やして、電気を作り出しています。

森からは住宅に使える立派な木もたくさん生み出されますが、一方で、材木として利用できない細い木や、製材で出る木くずや余った木などもたくさんあります。そういった木材を無駄にせずエネルギーに変えて、限られた資源をいかしています。

▲木質バイオマスの発電施設

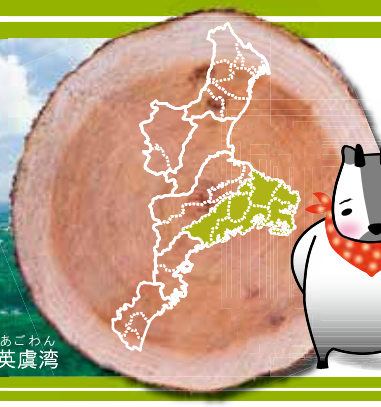
森を学び体験しよう！NPO 法人 大杉谷自然学校

大杉谷の豊かな自然の中で林業などの自然体験学習を行っています。例えば薪割りや五右衛門風呂焚き！また、伝統的な地域のくらしの聞き取り調査などにも取り組んでいます。

◀環境学習のようす
間伐体験で自分たちが切った木の年輪を数えます。

南勢 ―伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町―

志摩市 英虞湾



この地域の森の面積の割合は **72%**

南勢地域の沿岸部には森と海が複雑に入り組んだ美しいリアス海岸が広がります。そのような海の近くにある森は、海辺の環境を豊かにするため昔から大切にされてきました。地域を流れる宮川はまわりの森からの豊富な養分を含んで海に流れ込み、地域の海を豊かにしています。また、地域の資源を活用して、原木シイタケや木炭の生産が行われています。

山の森と海の森の不思議な関係

鳥羽市立海の博物館・館長
平賀大蔵さん

アマモの森にあつまる魚たち

海の博物館は、海と人間との関わりの歴史・現在・未来を展示する全国でもめずらしい博物館です。海と森は、深く関わっています。雨が降ると川から海に水が流れます。もし川から泥でにごった水が海に流れると、海の底に光がとどきにくくなり、アマモ（海草の一種）が育ちにくくなります。アマモ場は「海の森・海のゆりかご」ともよばれ、魚たちが卵を産んだり、おさない魚が育つ大切な場所です。きれいな水が流れる川にするためには、森を手入れして土砂の流れにくい山にすることが必要です。

平賀さんは、地元の漁師さんや研究所、海が好きな人々と協力して、小中学生といっしょに山に木を植える活動や、海の森を調査してアマモを植える活動を続けています。

▲小・中学生のアマモの苗の移植

自然はぜんぶつながっています。生き物はその「つながり」の中で生きています。大昔からずっと、漁師さんはそのことを経験として知っていたから、豊かな漁場を育ててくれる海のそばの森を大切にしてきました。

◀平賀さん

地域の木を使った環境にやさしい炭

さとう製炭工房
佐藤進司さん

地域にあるウバメガシの木を原料に、備長炭とよばれる炭を生産しています。

２mほどに短く切ったウバメガシを炭窯に入れ、火をつけてから10日間ほどで炭ができあがります。

備長炭は、煙が少ないうえ火持ちもよく、うなぎ屋や焼き鳥屋などの燃料として利用されています。

また、ウバメガシは切り倒した後、切り口から新しい芽が現れ、自然の力で育つことができ、とても環境にやさしい原料です。

炭を作ることで、若くて元気な里山に蘇ります。

▲佐藤さん

▼備長炭

クヌギ林から育てる原木シイタケ

キノコランド
藤原善一さん

藤原さんはたくさんの自然の力を借りてシイタケ作りを行っています。藤原さんが作っているのは「原木シイタケ」。クヌギの木の丸太にシイタケの菌を打ちつけて作るシイタケです。菌を打つクヌギ（ほだ木）は近くの森で自ら苗を植えて育てています。またシイタケを取り終えた木も冬にハウスを温める燃料として最後まで大切に使っています。シイタケ作りもクヌギの森づくりも自然が相手の仕事のため苦労することもありますが、それもシイタケ作りのおもしろさだと藤原さんは考えています。

▲原木シイタケ

◀藤原さん

森のことは森で考えよう！

吉田本家山林部
LEAF ナショナルインストラクター
吉田正木さん

吉田さんは江戸時代から続く林家の12代目です。もっと森の魅力を伝えようと、薪ストーブの販売や、ヒノキの楽器作りなど、新しい取り組みを行っています。LEAFとよばれる森林環境教育プログラムもその一つです。森の中で、森にあるものと五感を使って森と人とのつながりを楽しく学べるLEAFを全国で実施しています。

▲LEAF プログラム実施中の吉田さん

伊賀 ―伊賀市・名張市―

伊賀市 田代池

伊賀地域では、古くからアカマツの薪を使って伊賀焼などの陶器がつくられてきました。そのため県内の他の地域と比べると、アカマツやコナラなどの里山林が今でも多くみられます。また、青山高原（布引山地）などの山地を境に、地域を流れる川は全て大阪湾に注いでおり、大阪など下流部の都市にくらす人々にとっても伊賀地域の森は貴重な水源の森となっています。

身近な森・里山を学ぶ！ 三重県上野森林公園（伊賀上野ぴよクエの森）

三重県上野森林公園（伊賀上野ぴよクエの森）は、みんなが自然に親しみ、自然の面白さや大切さを学ぶための施設です。この公園は広さがドーム球場の約６個分。伊賀の里山エリアや生物多様性保全エリア、人が全く手を入れない保存エリアがあり、里山のことや希少な植物や昆虫について学んだり、木の道、土の道などいろんな散策路を通って森の中を探検したりできます。

自然の中で遊んだり、発見したりできるいろんなイベントを開催しています！

◀サギソウ園

▲森遊びのようす

公園では週末ごとに生きもの観察会、自然の素材を使ったクラフト、森遊びなど楽しいイベントを用意してみんなが来てくれるのを待っています！

▲神名所長

里山のマツで焼く伊賀焼！ 向開窯

伊賀市の丸柱地区は昔から伊賀焼の生産が盛んな地域です。

向開窯は江戸時代から続く伊賀焼の窯元で、里山のマツを使って陶器作りをしています。伊賀焼の特徴は「素朴さ」と「力強さ」です。油分が多く強い炎を生み出すマツは伊賀焼に欠かせない燃料です。炎と灰と釉薬が絶妙に合わさることで伊賀焼独特の風合いが生まれます。

◀８代目 福島一紘さん 窯焚き作業中の向開窯

▲燃料となるマツ

里山って、何でシカ？

人々は昔から身近な森の木や草、竹などを燃料や肥料、道具などにして利用してきました。このようにくらしの身近なところで利用されてきた森を里山といいます。最近では里山の利用が減り、放置された森が増えているためさまざまな人が里山を守る活動に取り組んでいます。

昔から、人のくらしに深く関わってきた森や山のこと

里山を守る！里山で遊ぶ！ NPO法人 赤目の里山を育てる会

▶キャンプでのハチミツとり

◀空き缶を使った炊飯体験

かつて地域でもちあがった大規模な開発から赤目の里山を守り育てるため設立されました。「赤目の森」の環境を守る活動や、地域の小学校との里山自然体験授業、日本中・世界中の子どもたちとの環境学習キャンプを行っています。

伊賀鉄道伊賀線では、利用者に三重県産の木材に身近にふれてもらい、木の良さや木を使うことで森林を支える社会づくりへの理解を深めるため、緑色の忍者列車（1編成2両）の内装を木質化し「木育トレイン」として運行しています。

伊賀鉄道「木育トレイン」
こんなところにも三重県の木!!

東紀州 ―尾鷲市・紀北町―

速水林業　大田賀山林

「尾鷲ヒノキ林業」は、平成２９年に「日本農業遺産」に認定されました。

▲尾鷲ヒノキ

東紀州の尾鷲地域は、雨が多く温暖な気候が木の成長に適しており、江戸時代から林業が盛んでした。山が海にせまる急峻で平坦地の少ない地形ですが、海岸近くに森があるため木材の運搬に便利で、当時は船でたくさんの木材を江戸に運んでいました。この地域を代表する「尾鷲ヒノキ」の森は人工林での日本三大美林の一つにあげられ、手入れが十分にされた美しい森で育つヒノキは、年輪の目がつまった強くて質の良い木材として有名です。

尾鷲ヒノキの小物づくり！　えびすや 大形弥生さん

大形さんは、尾鷲ヒノキの間伐材や製材したときに出る余った木（端材）を使って、毎日のくらしで使えるような木製のおもちゃ、スプーンや木べらなどの食器、アクセサリーなどの小物を作っています。小物から尾鷲ヒノキの新しい魅力を伝える取り組みです。

尾鷲ヒノキで作った木のおもちゃ

ヒノキって、こんなこともできるんだよ！

木って、切ったり削ったりするのが難しそうなイメージがありませんか？

尾鷲ヒノキはとっても丈夫だけど実はとっても加工しやすい木材でもあるんです。

木の小物は香りも手触りも良くて気持ちが良いですよ。ぜひみなさんも、お気に入りの木の小物を見つけて、使ってみてください。

職人が集う！ 尾鷲ヒノキの家づくり 東紀州・尾鷲ひのきの会

▲建設中の尾鷲ヒノキの家

日本の木材が売れなくなってきていた頃、「このままではいけない！」と地元の林業・製材業・木材加工業の職人が協力して尾鷲ヒノキを使った家づくりを始めました。テーマは「森の見える家づくり」。お客さんに家を建てるところや、実際に森をみてもらうことで尾鷲ヒノキの良さを伝え、伝統の技術を未来に引きつぐ取り組みを続けています。

森林認証って、何でシカ？

森林認証とは、きちんと手入れがされている森林であることを審査して認める仕組みです。認証された森林から生まれる木材製品には、そのことを示すマークがつけられています。マークを手がかりに買い物をすることで、森林の手入れをする人たちを応援することができるよ。

きちんと手入れされている森林であることの証です

いのちを感じる森づくり　速水林業 速水亨さん

速水さんは江戸時代から代々尾鷲ヒノキを育ててきた林家の9代目です。速水さんの育てる大田賀山林の森は、立派なヒノキの間に太陽の光がさしこむ気持ちの良い森で、人が隠れてしまいそうな大きなシダやたくさんの植物が茂り、さまざまな生き物がすんでいる豊かな森です。2000年には森がきちんと管理されている証である「FSC森林認証」を日本で初めて取得しました。「何千、何万のいのちを感じてほしい」。速水さんの森にはそんな願いがつまっています。

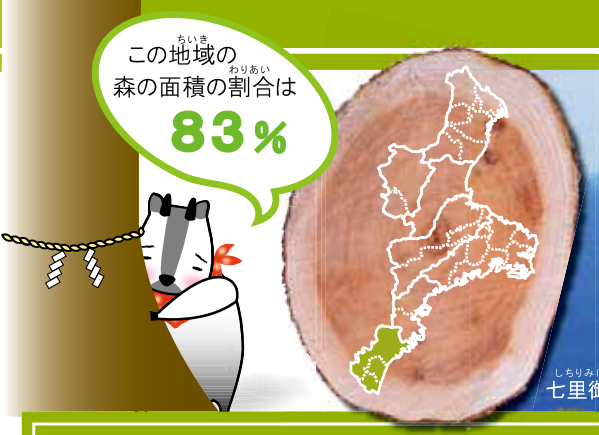
▲速水さん（上）と森のようす（下）

三重県立熊野古道センター 橋本博さん 森の生き物を学ぶ！

橋本さんは森の生き物のスペシャリストです。東紀州の変化に富んだ森林には小さな草花や昆虫など、たくさんの生き物がいます。身近な自然や生き物もよく観察するとあっとおどろく発見があります。

▲昆虫採集と標本作り教室

東紀州 ―熊野市・御浜町・紀宝町―



七里御浜

東紀州の熊野地域を含めた紀伊山地の一帯は、1300年以上の昔から「木の国（のちの紀伊国）」とよばれ、今でも良質な木材の産地として知られています。古くから林業が盛んだった熊野地域では、昭和30年代の頃まで、山で伐採した木材を筏に組んで熊野川に流して運搬し、河口の鵜殿村（現在の紀宝町）や対岸の和歌山県新宮市で集積していました。そのため熊野川の河口には製材工場や製紙工場が立地しています。

熊野古道の森を伝える　kumateng 山﨑るみ さん

世界遺産は、みんなの宝物！

世界遺産「熊野古道」を訪れる人々のために解説を行う「熊野古道語り部」の活動をしています。熊野古道は“巡礼の道”、“生活の道”であると同時に、“林業の道”でもありました。道沿いに広がる森の木を切り出すためにも使われていたのです。身近にある熊野古道の自然や歴史、生活文化、知恵を学びながら昔の人々が残してきた宝物（道）を伝えています。

道の世界遺産は、世界でも限られた地域にしかありません。これが三重県にあるのはすごいことなんです！森はわたし達の心や体に良い影響を与えてくれます。美しい緑の景色、きれいな空気、木の香りを実際に歩いて感じてみてほしいです。

▲解説をする山﨑さん
石畳の間から、太い木の根が見える。

なすび選りの森づくり！　森の名手・名人 尾中鋼治 さん

「なすび選り」は、約200年前から紀州地域に伝わる林業の方法で、大きくなった実から順番に収穫するナスビと同じように、大きく育った優良木から順番に切り出します。尾中さんは今でもこの方法で木を切り出しています。一度に全部の木を切らないため、同じ場所で何度も木の収穫が行えます。木を切った後は必ず苗木を植えるため、尾中さんの森では古い木と新しい木がいっしょに育っています。

◀尾中さん
スギの木に登って皮を剥ぐ「立ち皮剝ぎ」の名人。

川の中から森を考える　林業家 熊野川体感塾ツアーガイド 荘司 健 さん

熊野川に伝わる「三反帆」とよばれる川舟で、熊野川周辺に生育する熊野地方固有の希少植物や、魚を観察できるツアーを実施しています。

舟は、熊野川流域で唯一の船大工である谷上嘉一さんの作品で、熊野の森のスギ、ヒノキ、ケヤキ、カシの4種類を使い分けてつくっています。荘司さんは、林業家としても、きれいな川の水を生み出す森づくりを行っています。

▲ドロニガナ（左）とキシュウギク（右）
どちらも紀伊半島のみに生育する固有種。

◀熊野川を進む三反帆

御浜町の引作地区にある推定樹齢1500年のクスノキは、明治時代に伐採されそうになったところを博物学者の南方熊楠と民俗学者の柳田國男により守られました。現在は引作地区の皆さんや各地からのボランティアによって大切に保存されています。

三重県指定天然記念物
引作の大楠
地域で守る！三重県一のクス！

▲幹まわり約15.7m。樹高約31.4m。